

2022年9月14日 Vol.201

### 放置された有望銘柄の復活に期待

様々な要因で変動を続ける株式相場。9月も半ばになり比較的堅調な推移を辿ってきた日本株にも再び波乱の動きが見られます。コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻でエネルギーや食糧価格の上昇で見られ、コロナ後の消費拡大の中にあった米国の物価が急騰した影響が金利を上げられない日本にも押し寄せ、不況下の物価高、つまりスタグフレーションに陥っている現状の中で日本の株価指数は3月、6月に続き9月も調整の動きを見せてはいます。徐々に下値を切り上げるパターンで投資家は比較的落ち着いた投資スタンスを堅持してきたとの印象があります。一方、相次ぐ金利引き上げが続く米国市場ではNYダウが一時的に3万ドルを割り込んだ時期もありましたが、その後は反転の動きを見せていたものの8月の消費者物価指数が前年同月比+8.3%と予想以上の上昇率となったため再び波乱の動きを見せています。市場では政策金利の上げ幅が0.75%から更に1%になるとの見通しも出ており、NYダウは2番底形成に向かうとの見方も出て急落を見せており、これが日本株にも少なからぬ影響をもたらそうとしています。

こうした波乱含みの株式相場ではありますが、IPO市場には粛々と新たな銘柄が登場しており、悲喜こもごもの展開ながら中長期の成長期待を背景に投資家の関心を集めています。需給悪の中で令和4年は昨年のIPO数に比べ減少が予想されますが、10月19日のSBリーディングサービスまでで56銘柄。2月から8月までの43銘柄に加え、昨13日はオンサイト型の先端エンジニアリング事業を展開するジャパニアス(9558)がグロース市場に上場。公開価格1020円に対して初値は97%アップの2010円と人気化。その後も上値を追うなど華やかに関心を集めています。

ただ、同社に限らずこうしたIPO時の人気は一定期間が過ぎれば調整の動きに転じることとなります。令和4年のIPO銘柄調査の結果では先週末現在、43のIPO銘柄の中で初値も公開価格も時価が下回っている銘柄は16銘柄。一方で公開価格も初値も上回っている銘柄は14銘柄、公開価格は上回るものの初値に対しては下回っている銘柄が10となっており投資家の選別色は相変わらず厳しいようです。直近のIPOだけではなく過去のIPO銘柄をチェックしてみても多くのIPO時に期待された銘柄が放置された状態となっています。IPO銘柄に限る訳ではないですが成長期待の高い銘柄であっても、大きく上昇した後大きく調整するといった変動を見せています。特に上場時に人気化したIPO銘柄は高値からの下落率は大きくなりがちで中には高値から5分の1、10分の1以下になるケースも出てきます。こうした傾向は成長期待で高い評価が与えられてきたIT系銘柄や新サービス系銘柄に顕著に表れているようです。資産蓄積の浅いこれらの銘柄は業績の向上が投資価値につながります。いつまでも放置されていることはないと考えられますが、そうした長期に放置され続けている銘柄は改めての事業展望や戦略開示など今後のIR活動によって大いなる復活を期待したいと思います。(東京IPOコラムニスト 松尾範久)